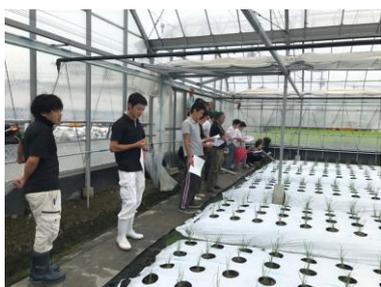


普及活動情勢報告（平成29年7月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

初期の生育管理と電照栽培について ～ニラ現地検討会の開催～



生育初期のほ場で実施

6月22日、須崎市多ノ郷地区と中土佐町上ノ加江地区で、ニラの現地検討会を開催し、管内の生産者17名が参加しました。

農業改良普及課からは、ニラの株養成期間のポイントとしてかん水・追肥管理、病害虫対策、抽台した際の対応などを説明し、併せて昨年度の厳寒期における電照栽培の実証試験について結果を報告しました。農家からは、「より丁寧に管理して、初期生育の遅れを取り戻したい。」「今年度は電照時間変えてみる。」といった意見が寄せられ、初期の生育管理の大切さと電照栽培の成果が共有されました。

農業改良普及課は、これからもJAと情報共有しながらニラの栽培を支援していきます。

夏期の栽培管理について学ぶ！ ～土佐甘とう現地検討会及び目慣らし会の開催～



オオタバコガを確認する生産者

6月22日、津野町及び梶原町の雨よけ及び露地土佐甘とうほ場で現地検討会及び目慣らし会を開催し、生産者33人が参加しました。JAは出荷規格の目合わせや確認を、農業改良普及課は夏期における尻腐れ果・焼け果等の生理障害対策や病害虫対策・整枝及びかん水管理のポイント等について説明しました。

現地ほ場での生育確認後に梶原町会議室では、説明の一環で害虫を参加者全員で確認し、「加害する害虫の名前と特徴がよくわかった」等、害虫に対する興味・関心が高まりました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して土佐甘とうの栽培管理を支援していきます。

ミョウガの腐敗に注意を ～JA土佐くろしおミョウガ部会が2回目の目慣らし会を開催～



規格を確認する生産者

ミョウガの夏場の出荷に向け、JA土佐くろしおの大間・浦ノ内・上ノ加江の各集出荷場において6月30日から7月11日にかけて、ミョウガ部会の「出荷目慣らし会」が開催されるとともに、「環境・安全点検シート」をもとに自己点検を実施しました。10回開催され、207戸（参加率97%）の農家が参加しました。

JA販売課から腐敗や異物混入の注意を、農業改良普及課からは、安定生産のための湿度の重要性や水やけ症対策などについて情報提供を行いました。農家からは、水やけ症対策について給液時刻の質問が出るなど、夏場の出荷に向け意識の高さがうかがえました。

農業改良普及課は今後も、これからの高温期のお荷に向け腐敗対策とミョウガへの環境測定機器の導入を推進していきます。

I P M技術の推進 ～ J A土佐くろしお花き部会クジャクアスター研究会の目慣らし会を開催～

品質向上を目指して！



J A土佐くろしお花き部会クジャクアスター研究会では、7月13日に目慣らし会を開催し、採花の時期等について目合わせを行いました。

J Aからは、最近の市況についての報告があり、農業改良普及課からはI P Mの基本技術としてのハウスへの防虫ネットの装着を働きかけました。生産者は防虫ネットの必要性について理解しているようでした。

農業改良普及課は、農技センターと協力してクジャクアスターのI P M技術の確立に向けて取り組んでいるところであり、防虫ネット・天敵等の導入をとおして、生産者の経営安定を図っていきます。

津野山ファンを増やそう！ ～青果物販売検討会の開催～



さらなる販売額向上を目指して

7月13日、J A津野山園芸部では、青果物販売検討会を開催し、生産者41人が参加しました。

J Aから平成28年度の園芸5品目の販売実績の報告、各品目の出荷実績優秀者の表彰の後、全国5市場から販売状況や今後の販売展開等について報告がありました。

生産者からは「市場からこの時期にこれくらいの量がほしいという情報を示してほしい。県内産の端境期がなくなるように取り組んでいきたい。」等の意見が出されました。市場からは「産地から情報発信して、市場関係者に津野山ファンを作してほしい。」との要望が出されました。

農業改良普及課は、生産者や市場ニーズを参考にして引き続き産地づくりを支援していきます。

信頼される産地に ～ほ場、農薬保管庫、作業場の点検活動～



今後の改善点を生産者と確認

J A津野山園芸部では、信頼される産地を目指し、6月13日から各生産者の栽培ほ場、農薬保管状況、作業場について点検を行っています。

今回J Aとともに点検シートに基づいて点検を行い、工夫している点や改善を考えている点について生産者と確認しました。

生産者からは「出荷物に異物混入がないように作業場は常に掃除を行っている。」「資材の放置が気になっていた。棚を準備して整頓したい。」といった前向きな意見が聞かれました。

今後も農業改良普及課は、全戸点検を行い、生産者と改善点を共有し、実施状況を確認しながらG A P活動の定着、向上を推進していきます。

高品質な出荷を目指して！ ～J A津野山ミョウガ部会が目慣らし会を開催～



熱心に出荷規格を確認中

6月23日、J A津野山ミョウガ部会の目慣らし会が、J A津野山営農センター集出荷場で開催され、14名の生産者の参加がありました。

J Aは現在の販売状況や異物混入の注意等を、農業改良普及課は梅雨明け後の遮光対策などの栽培管理について説明しました。

参加者からは、出荷されたミョウガの形や着色程度をみて、秀品の境目がどこなのか、お互いに意見が出されました。また、「梅雨明け後必ず遮光対策をする」という声も聞かれました。

農業改良普及課は、今後もJ A等関係機関と連携して、高温期における品質向上に向けて支援していきます。